

7月例会レジュメ

(7/7 (金) 18:00～20:00開催)

場所 技術士会荳手ビル5階 AB 会議室

参加者 13名

1. クリアランス制度について

講演者：東京電力(株) 加藤和之氏

(技術士：原子力・放射線部門、工学博士)

原子炉等の解体工事で発生する多量の廃資材のうち、放射線レベルが極めて低いものを再生利用することは、資源の有効活用、循環社会の形成の観点から重要である。クリアランス制度とは、人の健康への影響が無視できることから「放射性物質として扱う必要がないもの」として、放射線防護規制の対象から外すための法制度である。

本講演では、クリアランス制度概要、クリアランスレベル計算方法、各種測定技術、測定装置、測定誤差の低減方法について氏から詳しく説明された。また、電力事業者の当面のとりくみや実運用に向けての課題や問題点および具体的対策例などについて質疑応答された。

2. 原子炉塗膜の水中検査補修工法について

講演者：(株)東京エネシス 技術部 成川 薫氏

(技術士：原子力・放射線部門、機械部門、総監部門)

原子力発電所圧力抑制室 (S/C) の塗膜の保守・点検、補修作業をダイバを利用して行うことで、水抜きして全面補修する従来工法に比較して、大幅な工期削減やコスト低減を図るプログラムである。(以下水中工法)

1985年頃米国で開発されたものを日本向けに改良し、1995年に東京電力福島第二原子力発電所のS/Cが日本で初めて採用され、延べ16基の実績がある。

本講演では、氏が当初から関った水中工法導入の経緯や目的、従来工法との比較、水中工法の詳細、ECCS ストレーナ閉止キャップ工法、原子力用塗装規格と補修塗料、塗装欠陥発生原因と補修、長期補修計画とコスト、その他技術と今後の動向について実際の水中作業やモックアップの状況写真なども含めて本工法の有効性について詳しく説明された。

